

宮崎吐夢が聞き手となり、『業音』出演者全員と対談をするコーナー

吐夢の部屋

～『業音』の巻～



第8回 ゲスト：エリザベス・マリー

『踊り子のダブルキャストとして参加するエリザベス・マリー。松尾スズキの演出作は、『キレイ』（再々演／2014年）『キャバレー』（再演／2016年）に続いて、『業音』が3作品目となる彼女に訊く、松尾流ミュージカルのアプローチについて。

（※この対談の完全版は劇場で販売する『業音』公演パンフレットに収録します。）

吐夢 9歳からいろんなミュージカルの現場を経験してきたザベスから見て、『キレイ』とか『キャバレー』はどうでした？

マリー 『キレイ』はすごく特殊だなあと思いました。今まで観てきた・出てきたミュージカルは、エンタメとしてショーがあるんですけど、「物語の中で踊りが生まれる」みたいな考え方なのかな？と思って。『キレイ』の出演者ってダンスをやってる人じゃなかったじゃないですか。

吐夢 芸能人の人とか、僕らとかね。

マリー そうそう。「それでも、一緒に踊るんだあ」みたいな。

吐夢 「よくアタシたちと踊れるわねえ」って？（笑）。

マリー 違います！（笑）。普通のミュージカルは、アンサンブル（のダンサー）がうしろで頑張っ、前の人（役者）はそんなに踊らないことが多いのに、垣根なく、みんな同じことをするんだなあと。だから、『キレイ』って、なんでミュージカルにしたんだろう？と思ったんです。歌とか踊りがなくても成立するお芝居なのになあって。

吐夢 『キレイ』は、もともと松尾さんがミュージカルをやろうと思って作った作品なんですよ。物語ありきじゃなくて、ミュージカルありき。

マリー ああ～。松尾さんの中で「俺が作りたいミュージカルはこれだ」という感じだったんですかね。

吐夢 ミュージカルは前から好きだったみたいですけどね。でも、どっぷりとその世界を知ってるわけじゃないから、ミュージカルの自分の好きな部分と、自分が今までやってきたことが、ああいうバランスになったのかもしれない。わからないけど。

マリー でも『キャバレー』は、ザ・ミュージカル！って感じで、めちゃめちゃ踊ってました。『キレイ』と『キャバレー』では、アプローチの仕方が正反対ですね。

吐夢 初演の『キャバレー』はまだ松尾さん、今までの『キャバレー』像を崩す感じがあったんですよ。でも再演では、照れがなくなったんじゃないかと思うんですけど。

マリー なるほど。

吐夢 今回の『業音』はどうですか？

マリー 『業音』もすごく特殊だと思います。芝居中に、スッと効果的に踊りが入ってくるじゃないですか。「松尾さんはどうしてここで音を入れたかったのか」とか、まだ読み切れてないところがあって、探ってる部分ではあるんですけど。

(※この対談の完全版は劇場で販売する『業音』公演パンフレットに収録します。)